

- 千葉市は、森林所有者の自助努力によって整備が期待できない森林について自然災害等による施設被害を未然に防ぐため森林等の安全対策に取り組んでいる。
- 令和7年度は特殊地拵え4.91ha、植栽6.62ha、下刈10.5haの森林整備を実施した。

□ 事業内容

森林整備（特殊地拵え・植栽・下刈）の実施

・ 特殊地拵え

台風等の被害森林で被害木を含めた立木を皆伐、枝葉等を整理し植栽やその後の保育を実施するための基盤整備

・ 植栽

特殊地拵え施業地において、原則2年以内に苗木（ナラ・クヌギ等）の捕植

・ 下刈

植栽施業地において、植栽木の生育に障害となる雑草木の刈払い

【事業費】23,254千円（うち森林環境譲与税18,601千円）

【実績】特殊地拵え：4.91 ha、植栽：6.62 ha、下刈：10.5 ha

□ 取組の背景

- 千葉市では、令和元年台風15号により、風倒木が周辺の道路や電線等（以下「重要インフラ施設」）に被害を与え、大規模停電の発生や重要インフラ施設の早期復旧の妨げとなった。
- 自然災害等による施設被害を未然に防止するとともに、既に自然災害等により被害を受けた森林について、風倒木の残地による病害や二次被害を防ぐため、令和2年度から優良森林整備事業を実施している。



（地拵え前の状況）



（地拵え後の状況）

□ 工夫・留意した点

- 森林の管理は原則森林所有者の責務であるが、森林の伐採等の管理は費用負担が大きいことから、国・県の補助事業の活用や市の補助事業で実施することで、森林所有者に負担のかからない枠組みで実施した。
- 森林所有者と協定や覚書を締結し、事業実施後10年間は転用を認めず、下刈等を実施することで適正な維持管理を行う。

□ 取組の効果

- 特殊地拵え4.91ha、植栽6.62ha、下刈10.5haを実施し、過去の災害により被害を受けた森林の早期復旧と、今後発生し得る災害によるインフラ施設等への被害の未然防止のための森林整備に寄与した。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：135,426千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 千葉市は、昭和の森（総合公園）の魅力の一つである森、今後の整備の方向性と具体的な活用に関する検討に取り組んでいる。
- 令和7年度は市民参加型のワークショップ、試行的木材利用の検討をおこなった。

事業内容

- ①ワークショップの開催
- ②試行的木材利用の検討
- ③アンケートの実施

【事業費】1,760千円（全額森林環境譲与税）

【実績】28名参加（うち市内在住14名、市外在住14名）

取組の背景

- 昭和の森の森林ゾーンに広く分布するサンプスギ林は、樹齢50年以上を経過し大径木化が進むとともに、スギ非赤枯性溝腐病により、耐風性が低下するなど幹折れの危険が高まっていた。
- サンプスギ以外の広葉樹林でもカシナガキクイムシによる枯死や周辺環境の変化に伴う倒木・枝落枝が発生しており、令和7年度から危険木を中心にエリアごとに除伐作業を進めている。
- 今後更新予定の樹林地を含め、森の再生に向けた取り組みとして、ワークショップや木材利用の検討を開始した。



（罹患した杉の伐倒見学）



（木育利用の体験）

工夫・留意した点

- ワークショップの中で、サンプスギの罹患状況や伐倒作業の見学、木育利用の体験など機会を作った。
- 中学校と連携し、選択授業（全5回）の中で、昭和の森の杉丸太を活用したコースターづくりを行なった。

取組の効果

- 実際に森を見て触れるた上で、意見交換を行うことにより、昭和の森のみどりへの愛着と、森の大切さに関する理解が深まった。
- 今後の森の再生に先立ち、アンケートにより利用者や活動者視点での貴重な意見が収集できた。

基礎データ

①令和7年度譲与額：135,426千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 千葉市は、多様な生態系を有する谷津田の自然について、生物多様性を保全していくうえで重要な拠点に位置付け保全を行っている。
- 若葉区大草に位置する「大草谷津田いきものの里」内に生物多様性に関する解説板を設置した。

事業内容

木製解説板の設置

- ・「大草谷津田いきものの里」内に千葉県産材（スギ）を活用した生物多様性に関する解説板を設置した。

【事業費】649千円（うち森林環境譲与税604千円）

【実績】解説板設置 1基

取組の背景

- ・千葉市の原風景であり、多様な生態系を有する谷津田の自然は、水田や畑、雑木林、屋敷林などの様々な要素によって構成され、多くの野生動植物が生息生育しており、生物多様性を保全していくうえで重要な拠点として位置付けをしている。
- ・千葉市では、多様な生態系を有する「谷津田の自然」の保全を行っており、各地の谷津田において、令和3年度から森林環境譲与税を活用し、谷津田の自然や生物多様性に関する解説板の新設を行っている。

工夫・留意した点

- ・解説板に使用する木材へ、県産木材スギを使用した。
- ・解説板の板面へ県産木材を使用していることが分かるよう刻印した。

取組の効果

- ・設置した木製製品へ県産木材を使用したことで、県内の森林整備の促進に寄与した。
- ・県産木材を使用していることが分かるよう刻印、周知することで森林整備の普及啓発に寄与した。



（解説板：近景）



（解説板：遠景）



（解説板：板面の表示）

基礎データ

①令和7年度譲与額：135,426千円	②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 市民の森林整備に対する意識醸成のため、市内の放置竹林を活用した竹灯籠及び竹あかりを市民参加で制作し、「千葉開府900年記念第25回千葉城さくら祭り」のメインコンテンツとして展示した。
- 市民向けに開催した竹灯籠づくりワークショップは計17回開催、延べ600人が参加した。

□ 事業内容

市民向け竹灯籠づくりワークショップ・イベントでの展示

- 市民向け竹灯籠づくりワークショップ
放置竹林問題や森林整備の重要性に関するレクチャーと、竹灯籠制作ワークショップを併せて実施した。
- 千葉城さくら祭りでの竹灯籠・竹あかり展示
第25回千葉城さくら祭り（R8.3.28～4.5）での千葉開府900年連携イベントとして、ワークショップで制作した竹灯籠や竹あかりを展示した。

【事業費】7,724千円（うち森林環境譲与税6,800千円）

【実績】（ワークショップ）計17回開催、延べ600人参加
（竹灯籠展示）イベント来場者数：延べ166,000人

□ 取組の背景

- 千葉市では、放置竹林による森林や農地等への侵食などが課題となっている一方、伐採した竹材の活用機会が限られている。
- 例年10万人以上の来場者がある千葉城さくら祭りにおいて、市民参加で制作した竹灯籠及び竹あかりを展示することにより、千葉開府900年という節目に、持続可能な社会への意識づけや森林整備の重要性について広く普及啓発する機会とした。



（ワークショップの様子）



（竹灯籠・竹あかり
展示の様子）

□ 工夫・留意した点

- 区民まつりをはじめ、多くの市民が参加するイベントにて「竹灯籠づくりワークショップ」を開催した。ワークショップでは、放置竹林問題や森林整備の重要性に関するレクチャーを実施したうえで、市民自ら制作を行う形式とした。
- 材料には市内放置竹林から切り出した竹材を使用し、参加者が身近な問題として感じられるよう努めた。
- 千葉城さくら祭りでは、竹林整備や森林整備の重要性について記載した啓発パネルの設置やチラシの配布を行い、来場者への意識醸成を図った。

□ 取組の効果

- 市内放置竹林から切り出した竹材を活用した竹灯籠・竹あかりの制作及び展示を通じ、放置竹林問題や森林整備の重要性についての理解促進に寄与した。
- 市民参加型で制作を行うことで、森林整備を身近に感じる機会の創出につながった。
- 第25回千葉城さくら祭りには例年を上回る16万人以上が来場した。竹灯籠・竹あかりの展示を通じて、森林整備の重要性について幅広い普及啓発を図ることができた。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：135,426千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より